

研究主題

個別最適な学びと協働的な学びの一体化を実現する学習モデル
 —ICT 活用による選択・共有を生かした授業の普及とその検証—

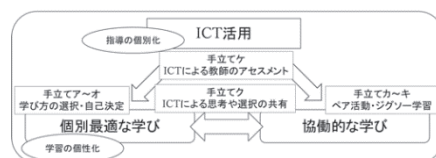
綾川町立陶小学校 横山大河

研究の具体

< 1 年次の研究 >

1 年次の理論研究では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な実現を目指した学習モデルを構築した（横山・松島、2023）。個別最適な学びを実現するためには、解決方法や学習形態などの選択を学習者自身が行う「学習の個性化」が必要である。また、孤立学習や単純な伝え合いに陥らないためのインタビュー活動やジグソー学習法によって「協働的な学び」が可能になる。これらの文献研究から見出した手立は、右表ア～キとなる。

1 年次の実践研究では、構築した学習モデルをもとに 5 年生算数科「面積」、「単位量あたり」の単元で実践を行った。学習意欲や学習理解の向上に一定の成果が見られ、「ICT による教師のアセスメント（指導の個別化）」や、学習者同士の「ICT による思考や選択の共有」等が重要であることが示唆された。一方で、提案する学習モデルが他の学年や教科ではどのように機能するのかまでは検証できなかった。さらに、どの教員にとっても実践しやすい学習モデルなのかどうか、検証すべき課題となった。



< 2 年次の研究 >

1 年次の課題から、提案した学習モデルの汎用性について、実践研究で検証した。

① 事前アンケートの実施（8月）

5名の研究協力者に事前アンケートを行った。対象は1年担任2名（20代・30代）、3年担任2名（20代・30代）、6年担任1名（20代）である。「個別最適な学び」「協働的な学び」「両者の一体化」「ICTの効果的な活用」について記述式・選択式のアンケートを行った。選択式アンケートは各項目が授業においてどれだけ実現できるかを「4できている」「3少しできている」「2あまりできていない」「1できていない」の4件法で集計し、数値の変容を分析した。事後アンケートの内容も同様である。

② 学習モデルの説明（9月）

学習モデルや実践内容についての説明を筆者が行った。

③ 学習モデルを生かした授業の公開（10月）

6年社会科「3人の武将」で学習モデルを生かした公開授業を行った。

④ 研究協力者5名による授業実践・事後アンケートの実施（11月）

以下の実践を実施し、事後アンケートを行った。

- 1年生活科「あきと なかよし」 国語科「はっけん したよ」
- 3年総合「ホームページづくり」 体育科「マット運動」
- 6年社会科「江戸の文化」「江戸の学問」

研究の検証及び改善の手立て

4件法で行った5名の回答を数値化し、事前・事後アンケートで平均比較すると以下の表のようになった。

	個別最適な学び	協働的な学び	両者の一体化	効果的な ICT 活用
事前	2. 8	2. 6	2	2. 4
事後	2. 8	3. 2	2. 8	3. 6

「協働的な学び」「両者の一体化」「効果的な ICT 活用」の3項目に関しては事後アンケートで結果が向上していた。特に「効果的な ICT 活用」に関しては4点中3. 6点と高い結果が見られた。学習モデルの説明で ICT 活用の立ち位置を明確に示したことや、公開授業でその様子を共有したことも影響していると推察する。

「個別最適な学び」の平均数値は変化が見られなかったが、記述式アンケートで「選択」というキーワードを使っていた研究協力者が1名から4名に増加しており、学習者視点の学びをイメージできていると考えられる。また、個の選択をもとに協働する際、学習者の実態を見取る教師の視点や、協働する目的・意義を明確にすること等が課題として考えられる。これらの結果をもとに、今後もさらなる学習モデルの改善・普及を行っていく。